

## 平成31年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

西野田110年の伝統と創立時の校憲に基づく「尊敬される職工の育成」に取組み、ものづくり大阪のリーダーを育成する大阪一の工科高等学校をめざす

- 優れた実習設備による技術指導と教養・健康教育を推進し、技・知・徳・体のバランスのとれた社会で活躍できる生徒（職業人）を育成する
- 全ての教育活動においてチャレンジ精神とともに協働性を育成し、新たな産業変化時代を生き抜く力を持つ生徒（職業人）を育成する
- 実践的技能養成重点校として、資格、検定、コンテスト、競技会、企業等との連携等の様々な教育活動に取組み、意欲ある生徒（職業人）を育成する

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力と学びに向かう力を育成する学校

- (1) 社会人として必要な教養を身につけ、生涯にわたって学び続ける意欲と姿勢を涵養するため、基礎・基本の学力を定着させるとともに、専門性の高い技術・技能の指導を行う。
- ア 授業内容・技術指導内容・評価の改善に取り組み、生徒の学びに向かう意欲と授業満足度を向上させる。
- イ 少人数展開の授業やICT機器の活用とともに、公開授業や研究授業を積極的に推進し、教員の協働により学校全体の授業力を向上させる。
- ウ 全ての教育活動において、生徒の協働性を育成するとともに、統率力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力を育成する取組みを実施する。
- \*学校教育自己診断「授業はわかりやすく行われている」肯定率（平成30年度1年生68.8%）を毎年5%以上引き上げ、2021年度に75%以上を達成する。
- \*学校教育自己診断「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」肯定率（平成30年度1年生68.3%）を毎年5%以上引き上げ、2021年度に75%以上を達成する。
- (2) 生徒に自信と意欲を持たせるために、実践的技能養成重点校として、製造現場で有効な国家資格・公的資格・各種検定試験等の取得・合格をめざすとともに、各種コンテスト応募や競技会等の出場、企業等との連携などの体験活動に積極的に取り組ませる。
- \*卒業までに3つ以上の検定試験合格・資格取得をめざす。平成31年度からはジュニアマイスター顕彰に毎年15人以上。

## 2 規範意識を高め、夢と志を持ち、豊かな人間性を育成する学校

- (1) 教員が生徒一人ひとりの学習歴や生活背景を理解し、生徒との信頼関係に基づき毅然とした生活指導を行い、問題行動の未然防止や再履修生徒や転・退学生徒の減少に努める。
- 挨拶指導・遅刻防止指導・携帯電話指導・校内美化指導・通学時の自転車マナー指導を徹底するとともに、学校全体で5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を推進する。
- \*2021年度には遅刻生徒数1,000以下を達成する。
- \*2021年度には再履修生徒数、転退学生徒数の合計で平成30年度の33%減を達成する。
- (2) 人権教育や様々な講演会・研修を推進し、社会人に相応しい人格と態度を養う。
- 発達段階に応じた人権教育や安全指導、薬物乱用防止、マナー向上等の多彩な講演会・研修を実施する。
- \*学校教育自己診断の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」肯定率（平成30年度78%）を毎年向上させ、2021年度に80%以上を達成する。
- (3) 生徒の自己実現への支援に努める。
- ア 教育相談体制の充実を図り、生活指導部・学年・系の連携による生徒支援と教育相談活動を行う。
- \*学校教育自己診断の「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」肯定率（平成30年度63.3%）を毎年5%以上引き上げ、2021年度に75%以上を達成する。
- イ 三カ年を見通した進路指導計画に基づき、キャリア教育の充実に努め、生徒の豊かな勤労観・職業観の育成に取り組む。
- \*学校教育自己診断の「将来の進路や生き方について考える機会がある」肯定率（平成30年度78.3%）を向上させ、2021年度に85%以上を達成する。
- ウ 生徒の夢や希望を実現するために、組織的で系統的な進路指導を充実させる。
- \*就職率100%を堅持する、公務員や大学進学決定率100%。離職率調査において、2021年度に3年以内の離職率25%未満（平成30年度33%）を達成する。
- エ 国際交流の取組みを充実させ、生徒の意欲や志を高め、コミュニケーション力を向上させる。
- \*国際交流の取組みを推進し、交流活動を体験した生徒数を2021年度に全生徒数の15%以上を達成する。
- (4) 読書活動を推進し、生徒に読書の大切さを指導する。
- ア 授業での図書館利用を推進する。2021年度に授業での利用状況50%以上を達成する。
- イ 図書館の開館時間を確保し、図書貸し出し数を増やす取組みを行う。

## 3 安全安心で魅力ある学校

- (1) 生徒会活動、部活動の活性化を推進する。
- ア 学校説明会、体験入学等の学校行事に生徒が主体的かつ積極的に関わるように指導していく。
- イ 部活動の活性化に向けた取組みを積極的に推進する。 \*部活動の加入率を毎年5%増加させ、2021年度に60%以上を達成する。（平成30年度48%）
- (2) 公開授業を継続するとともに、PTA活動や学校運営協議会等の一層の充実を図る。
- \*保護者向け学校教育自己診断の「この学校の学校行事（体育祭・文化祭・授業参観等）に参加したことがある」肯定率（平成30年度56.4%）を2021年度までに60%以上に引き上げ、これを維持する。
- \*保護者向け学校教育自己診断の「学校では、PTA活動は活発である」肯定率（平成30年度63.2%）を2021年度に70%以上に引き上げ、これを維持する。
- \*保護者向け学校教育自己診断の「学校は、教育情報について提供の努力をしている」肯定率（平成30年度73.4%）を2021年度までに80%以上に引き上げ、これを維持する。
- (3) 生徒に対する防災教育を推進し、防災意識を高めるとともに、防災マニュアルの更なる見直しに取組み、学校の危機対応能力を高める。
- \*生徒向け学校教育自己診断の「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか。知らされている」の肯定率（平成30年度74.0%）を80%に引き上げ、これを維持する。
- (4) 各種のイベントに積極的に生徒が関わるとともに、小中学校への出前授業に取り組み、学校の魅力発信に取り組む。
- 産業教育フェア、校外のものづくりフェスタ等と連携したイベント等への生徒の積極的な参画を推進するとともに、教員による小中学校への出前授業を推進する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年11月実施]	学校運営協議会からの意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度から肯定率はほぼ横ばいであるが、工科改編を軸に校内組織の改善を進めており、計画どおり進捗していることから、取組みを継続する。</li> <li>遅刻者数が大幅に減少しており、生活指導の成果が実ってきている一方、生徒への指導の納得感を高めるためのきめ細かな指導を行うことが必要である。</li> <li>保護者への情報発信については、見せ方や伝えるタイミング等の工夫を行うなど、さらに充実させる取組みを続けていくことが必要である。</li> </ul>	<p>(第1回) 5月30日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本協議会への出席を運営委員全員にしたことで、多くの先生方と情報共有ができたことはとても有意義である。</li> </ul> <p>(第2回) 10月18日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3年生の進路状況は良い。今後、PBLの取組みや西工のさらなる特色づくりに期待する。</li> </ul> <p>(第3回) 2月6日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本校生徒が小学校の教員や小学生に技術指導をする取組みは素晴らしい。継続してほしい。</li> </ul>

## 府立西野田工科高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力と学びに向かう力を育成する学校	<p>(1) 学力の定着と学びに向かう力の育成 ア 実習・授業内容を改善し、生徒の興味関心を高める イ 組織的な公開授業及び研究授業 ウ コミュニケーション力の育成を図る エ 1年生の基礎学力向上への取組を推進する</p> <p>(2) 資格取得の推進、検定等の積極的な参加と外部との連携による体験活動の推進</p>	<p>(1) ア PBLの推進に計画的に取り組み、シヨップの改善に取り組み実習の魅力を向上させる。 イ 授業改善(わかる授業)に取り組むため、ICT機器の活用、授業のユニバーサルデザイン化などをすすめる。実習の指導方法・評価の改善に組織的な取組を行い、生徒の満足度を向上させる。 ウ プレゼン能力の育成のために、課題研究発表大会や授業や実習でのスピーチ等を実施する。 エ キャリアガイダンスや英数国での少人数・TTでの授業に取り組み、基礎学力調査を活用し、生徒の学習意欲の向上に取り組む。</p> <p>(2) ア 各種検定試験の合格や資格取得、各種コンテスト応募や競技会等の出場を積極的に指導していく。 イ 技術力や意欲を向上させるため、企業等との連携授業や学校外での実習・見学・体験活動等を実施する。</p>	<p>[H30 数値]</p> <p>(1) ア PBLの研究と系横断の実習に取り組む 新しい実習の取り組みの満足度70%以上〔新規〕 イ 研究授業回数12回〔10〕授業見学参加率100%〔80%〕、1年生の授業満足度75%〔71%〕 ウ 課題研究発表大会での肯定的意見を75%〔71%〕 エ 基礎学力調査による学習意欲の向上をめざす〔新規〕</p> <p>(2) ア 資格取得計500〔431〕、コンテスト参加生徒160人〔150〕 Jr.マイスター顕彰18人〔17〕 イ 実施件数25件〔22〕</p>	<p>(1) ア 機械系・電気系が協働した系横断型のPBL(課題解決型学習)を取り入れた課題研究モデルを試行的に実施 取り組みの満足度70%(新) イ 研究授業回数10回(△) ※初任者研修、10年目研修等の指定研修以外の研修計画を立てる必要がある 授業見学参加率50%(△) ※授業見学期間を増やす等の工夫が必要 1年生授業満足度72%(○) ウ 課題研究発表大会での肯定的意見77%(新) エ 学習に向かう姿勢ができていない生徒83%(新) ※生活面において決められたことができ、自主的な行動ができてきている</p> <p>(2) ア 資格取得計423件(△) コンテスト参加生徒182人(◎) Jr.マイスター顕彰15人(△) 〔G1人、S5人、B9人〕 イ 実施件数100件(◎) ※連携の取り組みは目標を大幅に上回っており、今後も継続する</p>
2 規範意識を高め、夢と志を持ち、豊かな人間性を育成する学校	<p>(1) 規範意識を醸成する生活指導の取組み ア 挨拶運動・遅刻防止指導を推進 イ 5Sの推進、校内美化運動の推進</p> <p>(2) 発達段階に応じた人権教育の充実</p> <p>(3) 生活指導部と連携した教育相談体制の充実</p> <p>(4) 計画的な進路指導の推進</p> <p>(5) 国際交流の取組み</p> <p>(6) 読書活動の推進</p>	<p>(1) ア 挨拶・遅刻指導・スマホ等指導、通学時の自転車マナー指導を徹底し、生徒の規範意識を醸成する。 イ 職業人の基本として、すべての教育活動で、5Sを徹底推進し、学校環境の改善に取り組む。</p> <p>(2) 学年別人権教育の充実を図る。</p> <p>(3) 教育相談活動を充実させ、安全安心な学校環境をつくる。SC、SSWとの連携による生活指導体制を構築し、個々の生徒の実態に応じた指導を実践する。</p> <p>(4) 就職率100%を堅持するとともに、公務員や大学進学を希望の生徒が100%合格できるよう指導する。離職率調査を実施し、進路指導に活かし3年以内の離職率20%未満をめざす。</p> <p>(5) 国際交流活動を推進し、生徒に交流体験を経験させる。</p> <p>(6) 図書館の利用を促し、読書の大切さを指導する。 ア 授業での図書館利用を推進する。 イ 図書館の開館時間を確保し、図書の貸し出し数を増やす取組を行う。</p>	<p>(1) ア 遅刻総数1000以下〔1730〕 転学・退学者20%減〔45〕 イ 定期的な整理・清掃活動の実施回数〔新規〕学校環境の満足度70%以上〔62%〕</p> <p>(2) 生徒人権教育の実施回数3回 肯定率維持〔78%〕</p> <p>(3) 学校教育自己診断(生徒)「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」70%〔64%〕</p> <p>(4) 離職率調査を実施し3年後の離職率30%以下〔33%〕3年生への進路だよりの発行により、学校全体での進路指導体制を構築する</p> <p>(5) 取組みへの体験生徒数50人〔新規〕</p> <p>(6) ア 授業での利用数50回〔37〕 イ 生徒向けの本の貸出冊数と利用人数を増加させる〔新規〕</p>	<p>(1) ア 遅刻数738件(51%減)(◎) 転学、退学32件(29%減)(◎) イ 定期清掃活動等実施回数21回(新) ※5Sを定着させるため継続する 学校環境の満足度67%(○)</p> <p>(2) 人権教育実施回数3回 取り組みに対する肯定率76%(○)</p> <p>(3) 「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」の回答62%(△) ※さらに生徒が相談しやすい環境や雰囲気づくりを行う必要がある</p> <p>(4) 3年後の離職率51%(△) ※キャリアアップの離職者も含まれていると考えられる ※3年生への進路だよりの発行は行わず、廊下等に掲示板を新設し、広く生徒に周知した</p> <p>(5) 本行事の実施はなし</p> <p>(6) ア 授業での利用数36回(△) ※授業計画に組み込む検討が必要 イ 生徒向けの本の貸出冊数14冊、利用人数664人(新) ※今後も居場所としての利用を推進する</p>
3 安全安心で魅力ある学校	<p>(1) 生徒活動の活性化 ア 学校行事等に生徒が関わるよう支援 イ 部活動が活性化するよう学校全体での取組み</p> <p>(2) 開かれた学校づくり 授業公開を行うなど、PTA活動や学校協議会等の充実を推進</p> <p>(3) 防災等訓練等を通して生徒の意識の向上</p> <p>(4) 外部イベントへの積極的な参加と情報発信</p>	<p>(1) ア 学校説明会、体験入学等の学校行事に生徒が主体的かつ積極的に関わるように指導していく イ 部活動の活性化に向けた取組を積極的に推進する。併せて、部活顧問の長時間勤務の解消のために、負担均衡を図り、長時間勤務者の減少をはかる。</p> <p>(2) 年2回の公開授業を継続するとともに、PTA活動や学校協議会等の一層の充実を図る。</p> <p>(3) 地震、津波などの災害を想定した防災訓練を実施し、生徒の防災に対する意識を高める。教職員の対応マニュアルを見直し、学校の危機対応力を高める。</p> <p>(4) 外部イベントに生徒が関わるように指導するとともに、出前授業等を行い学校の魅力を発信する。 ア 西淀川ものづくりまつり、大正ものづくりフェスタ等と連携したイベント等へ参画を推進する。 イ 小中での出前授業等に取り組む、学校の魅力を発信する。</p>	<p>(1) ア 体験入学や学校説明会に関わる生徒数80名〔60名〕 イ 部活動加入率50%〔48%〕</p> <p>(2) 学校教育自己診断(保護者)「学校の学校行事に参加したことがある」を10%引き上げる〔56%〕 学校教育自己診断(保護者)「学校では、PTA活動は活発である」を5%向上〔63%〕</p> <p>(3) 学校教育自己診断(生徒)「地震や火災等への行動について理解している」を80%以上にする〔74%〕</p> <p>(4) ア 各種イベント等の生徒の参加回数を維持する〔12回〕 イ 教員による小中学校への出前授業等を実施する〔新規〕</p>	<p>(1) ア 中学校訪問や学校説明会等に参加した生徒数82人(◎) ※参加した生徒からは自信を得られたと好評であった イ 部活加入率56%(◎) ※年度(学年)によって増減があるものの、今後も加入率50%以上を維持する</p> <p>(2) 「学校の学校行事に参加したことがある」の回答62%(◎) 「学校では、PTA活動は活発である」の回答64%(○) ※学校から保護者への情報発信を充実させる工夫が必要</p> <p>(3) 「地震や火災等への行動について理解している」の回答74%(△) ※生徒の意識を高める啓発を行う必要がある</p> <p>(4) ア 生徒が参加した校外でのイベントの回数18回(◎) ※主催者からの評判もよく、本校生徒の自信にも繋がっている イ 教員による小中学校への出前授業等の実施回数11回(新) ※実施校からの評価も高いことから、この取り組みは継続する</p>